



一人旅での出会いーザンビアの母ー

会員 松田 昭司 (65期)

皆さんは一人で海外旅行をされたことはありますか。

一人でするにはハードルが高いとされる事柄として、海外旅行がよく挙げられます。トラブルが起きたときの対処を一人で背負わなければならず、また旅の楽しみや感動をその場で誰かと共有することができません。このような心細さや寂しさを感じるものがハードルの高さとして認識されているのでしょう。

しかし、その一方で、一人で旅をするからこそその利点もあります。まずもって自由であることが挙げられます。誰かと休みを合わせる必要もなく、またハイシーズンを避けることも容易です。

他にも一人旅の利点がありますが、私にとって「現地の人や他の旅行者との出会いを楽しむことができる」という点が一人旅の大きな魅力の一つであると考えています。

私はもともと積極的に旅行するようなタイプではありませんでしたが、以前インドネシアで生活する機会を持ったときから、いろいろなところへ旅行するようになりました。これまでアジアを中心に一人旅をして、いくつか記憶に残る出会いをしてきました。ここではその1つを記したいと思います。

インドネシアの西パプア州にあるラジャアンパットというところを旅したときのことで。ラジャアンパットは、ニューギニア島の北西に位置する島々のことで、手つかずの海がとてきれいで、世界中のダイバーに人気のあるところ。いくつかの島々に、一島一リゾートのような形で宿泊施設があり、私は事前にその一つを予約して現地へ向かいました。

ジャカルタからソロンという都市の空港へ飛行機で移動し、さらにそこからスピードボートで島へ向かいます。港まで案内してくれたドライバーから私と同じ日にチェックインする女性がいるということを聞き、港でその女性と合流した後、私たちはスピードボートで島へ向かいました。

島ではいくつかのオプションツアーが提供されており、その女性が偶然にも私と同じ日にチェックアウトするとのことだったので、全日程を通して一緒にツアーに参加することにしました。ツアーではバードウォッチングで南国の色とりどりの鳥を見たり、シュノーケリングで様々な魚やサンゴを見たり、自然を存分に楽しみました。

島での食事その女性と一緒に楽しみ、会話も大いに盛り上がりました。ザンビア出身の彼女は、ご主人がインドネシアのパプア地方出身であるということもあって、ラジャアンパットを旅行しており、そしてこの旅行の後はいくつか飛行機を乗り継いでザンビアに戻ることでした。また、ご主人がラグビーのファンで、日本で開催されるワールドカップの観戦のため日本旅行を計画しているとも話していました。

そして最終日、私たちは名残惜しい気持ちとともにソロンへのスピードボートに乗り込みました。道中彼女とともに島での思い出を振り返ったのですが、最後に彼女は私に対し「ショウジは、私にとって日本の息子だ」と言ってくれました。彼女のこの一言によって、私にとって全く縁のなかったザンビアに「母」ができたことが、大切な旅の思い出の一つとなりました。

結局彼女たちはラグビーのワールドカップ開催期間中に日本へ来ることはできず、日本での再会は叶わなかったのですが、いつか私から「母」に会いにザンビアへ行ってみたいと思っているところです。



ラジャアンパットの名所の1つ、ピアイネモの景色